

e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2020

十勝は冬休み

周りの景色は、ドライの黄土化しています。静まり返り、雪が来るのを待ち構えるようです。西高東低の冬型の気圧配置で、十勝では快晴が続きます。朝はマイナス5℃ 日中でもプラス5℃です。このような日が続くと土は固まり、ガンガンになります。乾燥して土埃もたちます。

遠くの日高山脈の山肌は、いつの間にか白く雪化粧が載りました。まだ、南を目指す白鳥の最後の群れが、5羽10羽と飛んでゆきます。

畑も来春の準備に入りました。ビート収穫も終わり、トラクターにつけた大きな散布機で堆肥まき、畑起こしを始めています。年間放牧の有機牛たちは、越冬地に移動します。そのお腹には来春生まれる胎児が育っています。



活動のお知らせ

17回資源循環型肉牛生産シンポジウム2020/日本産肉研究会第26回学術集会 終了報告作成中
次年度に向けての課題整理、補助事業等の確認作業

NEWSばかり読み

- JA全農 同期化シンクロET拡大で受胎率がアップ
11/2: ETシェア拡大にはずみ
- 生分解性プラスチック昨対10%増加 農業プラ対策へ
11/2: 使用しないと
- 農林水産省 食品ロス軽減に企業のルール緩和HPに事例紹介
10/3: まだまだ改善余地あり
- 世界景気7-9月9%減 中国アジアは増益に転換
11/3: 格差が広がる
- 学校給食に和牛続々採用 冷凍在庫消化に一役11/4:
- 北海道畜産公社十勝工場 対EU向け輸出加工認可
11/5: 輸出せいと言うが
- 居酒屋、レストラン外食産業の業種多様化進む11/5: ニューB
- 香川県 鳥インフルエンザで33万羽処分 過去最大
11/6: またかの脅威
- 9月農林水産物輸出で9%増 牛肉10%伸びる11/6: 復活か
- 標茶町肉牛法人「エフシーエス」冷凍牛ハムフレークが好評
11/7: 販売多様化
- 東芝 石炭火力発電建設から撤退 脱炭素に転換
11/11: 遅いけどまだ間に合う
- ホンダ 自動運転レベル3の車発売へ11/12: ついにきたきた
- 香川県 鳥インフルエンザ4例目 拡大11/14: 地域で収まるか
- 衆議院委員会 種苗法改正案を可決11/18: 内容把握必須
- 日清製粉とJA全農が業務提携 国産小麦の拡大で
11/18: 大同団結、中小残り
- CO2の地下貯留で、日米豪の連携11/19: このような結束賛成

- 農林水産省 中・外食用米の販売促進に5300円/60k支援
11/19: 拡大につなげるか
- 酪農大、北大、JA津別 有機子実用トウモロコシで栽培実証
実験開始11/20: 歓迎
- 食肉大手4社 上期決算 増益増収 内需需要がけん引和牛
販売好調11/20: 恩恵
- 政府 GOTO見直し検討11/21: 遅いかも
- セブン 脱酸素に5年間で1000億円投資11/21: 企業でも
取り組み開始 評価
- 名城大など 食害株で天敵誘引し害虫半減 手法世界初
11/22: 発想転換
- キリン 豪乳製品子会社 地元大手乳業会社へ売却
11/22: 地元は地元
- 和牛枝肉相場 前年超え コロナ打撃から回復か
11/23: 冷凍在庫課題
- コメ卸 種もみ供給に着手 生販一体化11/24: 垂直統合化か
- 農林水産省 21年主食米から飼料米へ転換支援 多収米などへ
奨励策11/25: コメ政策真剣に
- 鳥インフルエンザ 他地区へ拡大福岡兵庫
11/26: 食い止めれるか
- 全国和牛共進会次回27年開催地に北海道(全国生産2位)
11/26: 2位なんだ
- 農林水産省 農業従事者5年間で40万人減の136万人
11/28: 高齢化進行
- 飼料相場高値続くトウモロコシ大豆かす 産地農業気象悪化、
中国大量輸入11/28:

東京直近NEWS(11/30 Shi-REPORT)

ホルス

ホルス相場は先月からの上げ戻しから安定状況。
和牛交雑の相場高騰から、価格対応の国産牛として切落し中心に問合せ増加中。
今まで販売苦戦のロースも回復傾向で、ヒレ含め不足状態にシフト。
カタロースも季節要素から引合い強い。
パーツとしての赤身モモは停滞からやや余剰傾向も、切落しでなんとか。
年末年始前のクリスマスイベントも平日により分散傾向から、切落し含め、
需要は断続的予測。
但し、コロナ禍の外食業態状況次第の要素大きい。

経産牛

経産牛相場は依然高値維持している状態。
挽き材関係は需要維持から相変わらず市中不足傾向。
パーツ関係は外食が回復基調からの、再度自粛ムードで縮小。
停滞していたヒレ含めた冷凍在庫の動きも始めているが、この先不透明。
外食向けの原料荷動きは停滞予測し、量販向け挽き材は引き続き
堅調予測。
生体相場は高値維持と北海道産地への集中も、年末は和牛系にシフト
から瞬間的に相場冷めを予測。

1. 畜産技術#786.2020.11

1) フリーズドライ精子による世界で初めての子牛の生産～顕微授精とフリーズドライ技術の融合～(及川俊徳、宮崎県畜試)

フリーズドライ精子由来の産子は実験動物やウマの事例のみです、ウシのゲノム自体が保持されているフリーズドライ精子からの子牛の生産を試みました。県の黒毛和種雄牛から採精、高知大でフリーズドライ前にGHS, Na-EGTA緩衝液処理などの研究を経て、宮崎県で顕微授精、ホルスタイン種雌牛に受精卵移植して雌仔牛の誕生に至りました。2020年8月時点で4ヵ月齢、体重110kgで発育しています。

2) 畜産施設(畜舎)における消毒(渡邊理、兵庫県牛乳協会)

畜舎の消毒は家畜の伝染病の発生、予防、生産性の向上、畜産物の安全性を確保するために行われ、使われる動物用医薬品の製剤にはアルデヒド、逆性石けん、両性石けん、ハロゲン塩(ヨウ素系・塩素系)、フェノール類(オルソ剤)などがあります。畜産物の輸出などを視野に入れた生産過程におけるHACCP方式の衛生管理を意識した消毒の方法や消毒剤の特性を理解した適切な実施が重要です。

3) 世界の食肉の生産、輸出入の動向(USDA, 2020年7月10日)

Covid-19のパンデミックに陥った2020年の世界の牛肉生産量は2018年の7,127万t(枝肉:FAO2019.11)より約1%減と見込まれます。2020年の輸出量は凡そ1,070万t

で変わらず、アルゼンチン、ブラジル、EU、メキシコなどが増加、カナダ、北米は主要輸入国の需要減で減少、アルゼンチン、ブラジルは国内の牛肉需要の抑制が輸出増となり、それぞれの牛肉生産量の25,26%に相当し、アルゼンチンの牛肉輸出は過去最高に達しました。

2. 北海道肉牛研究会ニュース:環り協の学術情報の収集事業は日本畜産学会や北海道畜産草地学会報、肉用牛研究会報などの学術情報ですが今年はコロナ禍の影響で、大会や研究会の延期や中止が相次ぎ、情報が入らなくなりました。北海道肉牛研究会ニュースの内容を紹介します。

1) 5年に一度開催の和牛のオリンピックと呼ばれる「全国和牛能力共進会」が令和9年に北海道開催に向けて誘致推進協議会(会長鈴木直道北海道知事)が8月に設置され、9月に全国和牛登録協会に開催誘致を申請しました。

2) 黒毛和種における体系評価部位「肋付き」の客観敵評価手法の開発(畜試) 北海道黒毛和牛では「肋付きの悪さ」が体系評価成績の低さの原因とされており、その改良を目的に小型デジタル水準計を用いて肩胛骨後端の水平線からの角度を測定する客観的肋付きの評価法を検討しています。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2020

話題提供1.「相場の影響を受けにくい経営をめざして」

生産者視点での新型コロナウイルス拡大の影響と対策全3回シリーズ①

北十勝ファーム株式会社 上田 金穂



「生産者視点での新型コロナウイルス拡大の影響と対策」

相場の影響を受けにくい経営をめざして
北十勝ファーム株式会社 上田 金穂



コロナ禍での販売状況	販売可能な91%
・生協	32%
・宅配業者	9%
・卸業者	20% - 11%
・小売店、スーパーマーケット	15% +5%
・ギフト、加工業者	3%
・飲食店	9% - 3%
・家畜商等	3%



はじめに

これまでも幾度もの社会的問題によって、牛肉相場の乱高下

その経験を踏まえながら

今回の新型コロナウイルス感染症拡大でのライフスタイル変化をどの様に考えるか?



農畜産物は相場で収益が大きく変わる

- ・第一次オイルショック(1973年)
- ・第二次オイルショック(1979年)
- ・バブル崩壊(1993年～)
- ・BSE問題(2001年)
- ・リーマンショック(2007年)
- ・口蹄疫(2010年～)
- ・東日本大震災放射線問題(2011年)



オイルショック

- ・大きく損をした人
- ・一部影響を受けなかった人
- ・負債を圧縮した人



バブル崩壊・牛肉の自由化

【ホルスの年間平均販売価格一頭当たり】

- ・平成元年 49万円
- ・平成2年 52万円
- ・平成7年 27.5万円

・数でこなそうとしてH5年には1400頭まで増やした

平成4年、ホル去勢を枝単価1,100円/kgで契約を機に生協等の販売先を模索



転載・再利用は固くお断りします